

**Q** 学級がうまく機能しない状況（いわゆる「学級崩壊」）にあり、早期の対応が求められました。どのように対応すればいいか教えてください。

**A** 一部の児童が、5月の連休が終わった頃から担任の言うことを聞かず、授業中立ち歩いたり、時には騒いだりすることを繰り返すようになりました。この事態を心配して、保護者から何らかの対応を求める電話が入りました。担任や学年部からも校長に相談があり、学校として早急に対応することになりました。

いわゆる「学級崩壊」は、1990年代後半から大きな教育問題となってきました。このような状況が生じるには、様々な要因が考えられます。それも、複合的に重なっています。これまでの諸調査によって挙げられているのは、学級編制による児童生徒の組み合わせなど、子ども自身の集団生活や人間関係の未熟さ、また、特別な教育的配慮や支援を必要とする子どもへの対応のあり方の問題、そして学級担任の指導力の問題などです。

「学級崩壊」は、児童生徒と担任との信頼関係が崩れる状況でもあります。まずは、荒れを見せたり、反抗的な態度をとったりする児童生徒の実態を把握することです。しかし、荒れを示す児童生徒の思いはたいへん複雑です。自尊感情が低下していることも少なくありません。こうしたことから、中長期的な取組になることもあります。

そこで、当面する具体的な対応は、以下のようなことが考えられます。

- ・組織的な指導体制をもとに対策チームを編成し、学級の状況把握と対応方針を明らかにする。
- ・学級の改善に向けた校内支援体制を構築する。
- ・実態に合わせて、少人数授業や入り込み授業、教科担任制などの授業に取り組む。
- ・全教職員の共通理解のもと、問題行動に対して毅然とした一貫した指導を行う。
- ・教育相談体制を構築し、児童が思いや悩みを話しやすい環境づくりを行う。
- ・担任を孤立させず、指導上のアドバイスや精神的な支援を行う。
- ・当該児童の家庭との連携を図り、共に課題解決を行う関係を構築する。
- ・保護者やPTAと協働して取り組む。
- ・必要な場合は、関係機関とも連携を図る。

これらに取り組むとともに、児童生徒との人間関係を構築し、担任の指導力向上を図ることが改善につながります。

詳しくは「小・中学校生徒指導ガイドライン」（奈良県教育委員会事務局生徒指導支援室）を参考にしてください。

校種

小学校・中学校